Local wound management factors related to biofilm reduction in the pressure ulcer: A prospective observational study

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2022-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065139

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

令和３年２月 22 日

博士論文審査結果報告書

学籍番号　1329022008

氏　　名　小柳　礼恵

論文審査員

主　査　大桑麻由美（教授）　印

副　査　須釜淳子　（教授）　印

副　査　表　志津子（教授）　印

論文題名　Local wound management factors related to biofilm reduction in the pressure ulcer: A prospective observational study　褥瘡のバイオフィルム減少に関連する局所管理要因に関する前向き観察研究

論文審査結果

【論文内容の要旨】

明らかな感染徴候が認められず治癒遅延状態である褥瘡の原因として、臨界的定着（クリティカルコロナイゼーション）が、最近注目を受けている。しかし、クリティカルコロナイゼーション状態への褥瘡局所管理方法は明確ではない。大学病院、総合病院、長期ケア病院の３施設に入院中の褥瘡保有患者 34 名を対象に前向きに調査した。クリティカルコロナイゼーション状態に関与するバイオフィルムを、wound blotting 法にて採取したメンブレンを染色し、その面積を初回観察時と１週間後に画像処理ソフトにて計測した。バイオフィルム面積の変化量を従属変数、褥瘡局所管理方法（薬剤、創傷被覆材の種類等）を独立変数として多変量解析を行った。その結果、有意な影響要因としてヨード系軟膏（回帰係数－0.26　、p=.003)が抽出された。

【審査結果の要旨】

クリティカルコロナイゼーション状態にある褥瘡の局所管理方法の選択は、褥瘡管理に関わる医療従事者にとって難儀であった。その理由として、クリティカルコロナイゼーション状態に関与するバイオフィルムが肉眼的に観察できなかったことが挙げられる。本研究において、近年開発されたバイオフィルム染色技術を使用し、臨床で行われている局所管理方法を検討したことは先駆的であり、かつ医療従事者が褥瘡局所管理方法を選択する際の貴重な情報となることが示唆された。説明は初めて聞く人に配慮したわかりやすいものであった。質疑応答において、観察期間の妥当性、クリティカルコロナイゼーション状態に影響する要因、バイオフィルム測定手順の妥当性、抗菌効果を有する銀含有軟膏に関する考察、多変量解析手法、バイオフィルム染色の臨床応用について質問があり、的確に回答していた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。